

日本語学習者の教室外言語活動の実践例

An Application Exercise for Japanese Learners beyond the Classroom – Conducting Surveys in Japanese with Native Speakers in Tokyo –

小林久恵 (コネチカット大学) Hisae Kobayashi (Connecticut College)

コネチカットカレッジの Travel Research Immersion Program (TRIP) を活用し、2010年の春休みの期間、日本語学習歴二年目の学生を対象に日本語研修旅行を行った。本発表では、この研修旅行中の学生の言語活動の一部を紹介する。

過去4回の研修旅行では、学習者の日本語学習意欲向上や継続、日本・日本語環境への適応などに焦点を当てたが、今回は日本人に口頭でアンケート調査をするというタスクを通じた言語活動を試みた。参加対象の学習者は、日本語202を履修中の学生4名、期間は3月15日から3月25日までである。アンケート調査の対象は日本語話者とし、内容は「敬語について」とした。「敬語について」アンケート調査することになった理由は、「敬語を外国人が使ったら日本人はどう思うのか」という学習者の疑問からである。第四セメスター目の学習者であることを考慮し、インタビュー内容は学習者に作らせず、こちらで与えることにした。アンケート調査で使用される言語は、既に学習した構文と語彙に限り、この時点でまだ導入されていない「使役」と「受け身」を含む敬語は、学生の質問には使用していない。アンケート調査の内容は、敬語を使った経験があるかないか、敬語の使い方に自信があるかないか、敬語が大切だと思うかどうか、正しい敬語を使えるようになりたいかどうか、日本語を使用する外国人も敬語を使った方がいいかどうか、アルバイトの使用する“敬語”についてどう思うか、である。口頭でのアンケート調査はビデオテープに録画させ、帰国後データを提出させた。アンケート調査を通しての学習者の変化と学習者側の反応を報告する。

1. 参加学生

日本語202受講者四名全員参加

研修旅行参加者は日本語201を修了し、日本語202を履修中の学生とした。研修旅行のプロポーザルの提出時点では、参加予定者が5名であったが、1名病気休学により、201番を修了できなかったため、最終的に4名となった。

- * 性別は全員女性
- * 日本語学習歴は、全員第四セメスター目である。
- * 日本語201の成績はB+が2名、C+が2名
- * 日本語202の成績はB+が2名、B-が1名、C+が1名

2. 活動期間と場所

2010年3月15日にJFKを出発し、翌16日に東京着。3月25日に成田空港から帰米。日本滞在中の空き時間にインタビュー活動をさせた。

インタビュー活動は、都内の喫茶店、宿泊先のホテル（新高輪プリンスホテル）、日光の旅館（日光ぐりーんほてる 懐かし家 風和里）、個人の家

3. 器具

コダック、ポータブルビデオレコーダー 2台
ソニー、ヴォイスレコーダー 2台

学習者の日本語運用能力を考慮し、記録は録画・録音させることにした。録画・録音させることで、引率／本発表者（以下本発表者とする）がインタビュー中に付き添わなくても、正確なデータを取ることができた。

4. アンケート調査の回答者

回答者の職業：中学生	1名	(男性)
販売員	1名	(女性)
エンジニア	1名	(男性)
高校教師（非常勤講師を含む）	3名	(男性2、女性1)
旅館のフロント	1名	(男性)
主婦／翻訳の仕事	1名	(女性)
主婦／茶道の先生	1名	(女性)
定年退職後、年金受給者	1名	(男性)

学習者がインタビューをしたのは計10名。10名のうち、5名は本発表者の友人、親戚である。残りの5名はホテルや旅館で学習者が自らで頼んだ日本語話者である。

学習者は大学外ならびに日本語教師以外の日本人と話した経験がほとんどなく、インタビューを行うのも初めてであったため、研修旅行前から本発表者の友人3名と親戚1名にインタビューの件を依頼しておいた。5人目は帰米前日（第10日目）にホテルまで訪ねて来た友人にその場で依頼した。あらかじめ依頼しておいて3名には、日本滞在2日目と3日目にインタビューを予定し、4人目は茶道の稽古（第9日目）の直後に予定した。

第2日目に行ったインタビュー2件のうち1件は録音に失敗しデータが存在しない。

5. アンケート調査の工程

第4セメスター中の日本語学習者がインタビューをすることを考慮し、インタビュー内容は本発表者が作成した。「外国人が敬語を使うと日本人はどう思うのか」という学習者側の疑問から、インタビューの内容を「敬語について」と定めた。質問は20項目あり、所要時間は18分から6分ぐらいである。

二人ずつのペアでインタビューを行わせるつもりであったが、ペアで行った場合と、四人全員で行った場合がある。ペアの組み合わせも、その場によって違っている。全て学習者に任せた。

本発表者の友人・親戚のインタビュー以外は、学習者たちだけに行わせ、インタビューを依頼するところから、インタビュー終了まで全て学習者に任せた。

6. アンケート調査の内容と結果

- 1 敬語を使うことがある。 ある（9人中9人）
- 2 どんな時に使うか。
 - * 年上／目上／先輩／上司／先生と話す時
 - * 取引先のお客様／仕事のお客様と話す時
 - * 尊敬する人と話す時
 - * 親しくない人と話す時
- 3 敬語を間違っ、恥ずかしい経験、または、困った経験をしたことがあるか。
ある（6人）
 - * 若い時／就職したばかりの時間違えた。
 - * つかうべきでないところで使ったり、使うべきところで使わなかったりしたことがある。
 - * 目上の人と話す時に、目下の人への話し方をしてしまった。

- * 身内の事を話す時に間違えた。
- * 不必要なところに「お」をつけた。
- * 年を取れば取るほど恥ずかしい。

ない (3人)

- * あまりない。(中学生)
- * 困ったことはない。(販売員)
- * 感じない。(高校非常勤講師)

- 4 敬語を間違えずに使えると思うか。
思う。(2人) (中学生、販売員)

思わない。(7人)

- * 間違っただけにいる。
- * 間違えていないつもりでいるが、間違いに気がついていないと思う。
- * 70%ぐらいは間違えずに使えると思う。
- * 間違えないように心がけている。

- 5 敬語はどこで覚えたか。

- * 両親、学校の先生、国語の時間
- * 家にお客さんが来た時に両親が使うのを聞いて覚えた。
- * 目上の人を使うのを聞いて覚えた。
- * 最初は学校で覚え、後は仕事をしながら覚えた。
- * 親や他の人の会話を聞いたり、本を読んだりした。
- * 生活の中で自然に身につけた。

- 6 敬語は誰が教えてくれたか。

- * 5と重複回答
- * 自分で間違えながら、覚える。

- 7 敬語使って、どういう時に心配になるか。

- * 取引先のお客さん、特に敬語を使い慣れている人と話す時、自分が正しく使えているかどうか心配になる。
- * 尊敬語と謙譲語の使い方が分からない。

- 8 心配な時はどうするか。

- * 誰かに聞く。テレビなどを見て覚える。
(1名以外、学生は質問していない。)

- 9 どうして敬語を使わないのか。

(敬語を使わない人はいなかった。)

- 10 敬語は大切だと思うか。

思う。(9人)

理由は：

- * 人間関係に影響する。
- * 礼儀
- * 人を敬う気持ちは大切
- * 年上の人を敬ったり、社会の中で自分をわきまえることが大切

- * 上司にも年上の人にも同じ言葉で話す若い人は多いが、社会では通用しない。
- * 大切だが、きちんと（正しく）使えなくても、大きな／失礼な間違えをしなければ良い。

- 11 敬語の使い方を正しく覚えたいと思うか。
 思う（7人）
 （残り2名は学生が聞いていない。）

誰に、または、どこで教えてもらいたいか。

- * 他の人の話を聞く。
- * 本を読む。
- * 古い映画を観る。
- * 両親、家庭
- * 学校
- * 実社会
- * 仕事が始まれば自然に身に付く。
- * 敬語の正しい使い方を教えてくれる学校があるといい。
- * 先輩や使い慣れた人に教えてもらう。
- * テレビで正しい使い方を教える。
- * 会社などでビジネスマナーとして教える場を設ける。

- 12 日本語を勉強している外国人も敬語が使えるようになるべきだと思うか。

- A 使えるようになるべきだ。
- B できたら使えるようになった方がいい。（8人）
- C 使えるようにならなくてもいい。
- D 使う必要がない。

（残り1名：質問が聞き取れず、学生に質問をしたが、学生がその質問の意味が分からず、この質問を飛ばした。）

理由：

- * 使えるようになった方がコミュニケーションがとれる。
- * 人に寄っては敬語を使わないと気分を害される場合がある。
- * 聞いていて、（敬語を使わないと）気持ちがよくない。
- * 相手を敬う気持ちが表れる。
- * 馴れ馴れしい感じがするから、使って欲しい。

- 13 日本で仕事をしている外国人は敬語を使うべきだと思うか。

- A 使えるようになるべきだ。（6人）
- B できたら使えるようになった方がいい。（3人）
- C 使えるようにならなくてもいい。
- D 使う必要がない。

理由：

- * 上下関係があるから、コミュニケーション上大切
- * 社会習慣に合わない。
- * ビジネスでは覚えないと（仕事は）無理
- * 正しく使えないと仕事ができないと思われる。
- * 日本では敬語を使うことは必要
- * 日本はそういう社会だから、目上の人には丁寧に話すものだし、その方が気持ちがいい。

- 14 知らない外国人が敬語を使わずに友だちみたいに話して来たら、どう思うか。
- * 仕方がないと思う。
 - * 別に構わない／何も思わない。
 - * 親しみやすいと思う。
 - * 受け入れるが、本心では使ってほしいと思う。
 - * 若い人なら仕方がないと思うが、年齢が上の人の場合は、「なぜ勉強しなかったのだろうか。」と思う。
 - * 丁寧過ぎる場合の方が、友だちになれないと思う。
- 15 知らない外国人が敬語を使って話して来たら、どう思うか。
- * 勉強熱心な人だと思う。
 - * いいと思う。喧嘩にならない。
 - * 素晴らしいと思う。びっくりするけど、嬉しい。
 - * 誰に習ったのだろうかと思う。偉いと思う。
 - * 好感度がいい。
 - * 気持ちがいい。
 - * 仕事を始めたばかりの頃は、流暢に話す外国人にびっくりしたことがある。
- 16 外国人が敬語を間違って使って、困ったり嫌だったりしたことがあるか。
- * ない。
 - * 敬語は難しいので、使おうという気持ちが嬉しい。
 - * 外人だから仕方がないので、大目に見る。
 - * 不快な敬語
 - * あまりないが、テレビで品のないことを言うのを聞くと嫌だと思う。
- 17 アルバイト敬語について
知っている。(5人)
知らない。(4人)
- * アルバイト敬語という言葉は知らないが、変な敬語は知っている。
 - * 間違った敬語のことなら知っている。
 - * 聞いたことはあるけど、具体例は挙げられない。あれは、嫌。「ら」抜きも嫌。
 - * 間違った敬語なら、自分も使っていると思う。
 - * そういう言葉が流行っているのかな、と思う。
- 18 アルバイト敬語にはどんものがあるか。
- * コーヒーでよろしかったでしょうか。
 - * 1000円からお預かりします。
 - * マクドナルドで使っている敬語。マニュアル通りに使っている。
- 19 アルバイトではない仕事で、アルバイト敬語を使ってもいいと思うか。
- * いいとは思わない、敬語ではないから。
 - * マニュアルの言葉で、心がない。
 - * アルバイトでも使ってはいけない。仕事に関わらず、使ってはいけない。
 - * アルバイトの敬語を使ったら、日本語の乱れが出て来る。年をとれば落ち着いて来るかも知れない。
 - * 使うのは幼いと思う。使わないようにすることが大事。
 - * 良くないと思う。気分が良くない。おかしいと思う。
 - * マニュアルの言葉でおかしいと思う。分からないで使っているのだと思う。

7. 参加学生へのインタビュー

帰国後、アンケート調査に参加した学生へ彼らの経験についてインタビューをした。

- 1 インタビューが初めてかどうか。
全員初めて
- 2 インタビューをして、どう思ったか。
* 恥ずかしかった。
* 心配だった。
自分の日本語が分かってもらえるかどうか心配だった。
日本語でしか話してはいけないのが心配だった。
* とても面白かった。
- 3 インタビューをする前は、インタビューについてどう思ったか。
* 心配だったけど、インタビューの SCRIPT があるから、それほど心配はしなかった。
- 4 インタビューをした後は、インタビューについてどう思った？
* SCRIPT があれば、平気だと思った。
* ほっとした。
- 5 インタビューを何回もして、慣れたか。
* すればするほど易しくなった。
- 6 慣れてから、上手にできるようになったことがあるか。
* 「ああ、そうですか。」「分かりました。」など、話し手が話した後に、言えるようになった。
* 敬語の使い方が分かって来た。
* 質問されたことに答えられるようにあった。
- 7 何度やっても、できるようにならなかったことがあるか。
* アンケート調査を依頼するのが難しかった。
- 8 上手にするためには、どうすれば良かったと思うか。
* もっと練習すれば良かった。
* 言葉を調べれば良かった。
- 9 アンケート調査の内容についてどう思う。
* 面白かったけど、敬語は難しい内容だと思う。質問の内容を説明するのが難しかった。
- 10 長さについてはどう思う。
* 答えは短かったから、長さはいいと思う。
- 11 調査の結果、分かったことはあるか。
* どういうところで、敬語を使うかが分かった。
* どこで敬語の使い方を覚えたか分かった。
アルバイト敬語についてはインタビューされた人はどう思っていた。
* 間違った敬語だと言っていた。
* 旅館の人は好きじゃないと言っていた。
- 12 今回はみんなでやったけど、一人でやれるか。
* できると思う。(全員)
* 経験があるから、一人でできると思う。した経験がなかったら、できるかどうか分からない。
- 13 どのようにインタビューをする人を選んだのか。
* ホテルの中で忙しくなさそうな人を選んだ。
* ロビーで座った人に頼んだ。
- 14 インタビューを頼んで断られたこともあったか。
* 時間がないということで断られた。
* 日本人じゃない人に断られた。

- 15 チャンスがあったら、してみたいか。
* はい。もちろん。(全員)
- 16 この経験が役に立つか。
* 役に立つと思う。(全員)
- 17 知らない日本人と話してみてもう思ったか。
* 恥ずかしかった。
* 今でも恥ずかしい。
- 18 知らない日本人と話してみても、日本語に自信がもてるようになったか。
* 時々、「だめだ。」と思ったけど、普通は「大丈夫だ。」と思えた。
* 間違えたのに、ほめられた。
* 外国人が敬語を使うことについての質問の回答に元気づけられた。
- 19 やってみていい経験だったかどうか。
* 外人だけ日本語を話すようにしていたから、皆さんは嬉しそうだった。
* 大学院に進む時にこの経験は役に立つと思う。
* 今は少し日本語に慣れた。
* いい経験だったから、自信が持てるようになった。
- 20 集めた結果を検証して、レポートで書いてみたいかどうか。
* 日本語では分からない。
もし、日本語の3年や4年生の宿題ならやる？
* やると思う。
- 21 インタビューのことで他に言っておきたいことはあるか。
* 日本へ行く前に敬語の使い方をちゃんと覚えた方がいい。
* 行く前に、教科書の聞き取り練習問題を使って、練習した。
* 聞けば聞くほど、聞きやすくなったから、いい経験だった。
* 間違っても心配しないで、話した方がいい。
* 日本語で考えるようにした。

8. 考察

アンケート調査という形式を取った理由の一つは、宿泊施設や飲食店や販売店の従業員など、外国人に接する機会の多い日本人ではなく、一般の日本人と話す機会を設けたかったことである。また、研究のアンケート調査ということで協力的な日本人が多かったことも今回の試みにはプラスになった。今回の調査では、本発表者の友人・親戚へのインタビューを除いて、学習者のみで調査をさせた。また、質問事項は日本出発前に学生に持たせておいた。学習者のみで調査させる場合、学習者は全て自分たちで対応しようという努力が見られた。また、回答者も学習者の日本語が分からない場合、分かるまで学習者に質問する。従って、学習者は自立した日本語話者として会話に参加できる。これは、長所と言える。本発表者(日本語母語者)がいた場合、回答者は学習者の日本語が分からなくなると、本発表者に質問したり、答えたりする場面が見られた。また、学習者側も分かるなくなると、本発表者に頼る傾向があった。

学習者のみによる調査のもう一つの長所として、学習者が日本語を間違えても話し続けるという練習ができたことも挙げられる。学習者もこの経験を肯定的なものとして捕らえている(質問21番)。本大学の日本語授業で学習者は間違えると直される。直されることにより正しく日本語を使えるようになるのだが、本大学の学習者は間違えても話し続けることに慣れていない。実際日本に留学した場合、日本人との会話を続けるためには、間違えても話し続けるスキルが必要となる。今回のタスクにより、間違えても話すという経験ができたのは良い収穫と言える。

上記の長所に対して、短所として、学習者が回答者の質問を聞き取ることができなかつたり、意味を誤解したり、また質問そのものに答えられない場合、対応できないことが挙げられる。今回の調査でも、学習者が回答者の質問に対応できず、アンケートの回答が得られなかったケースがいくつかある。特に今回は調査内容が「敬語」であったため、日本人でも「敬語」の定義がはっきりせず、「丁寧語」と混

同する場面もあった。これは、学習者が帰国後のインタビューで答えた内容とも一致する（質問 9 番）。この短所の対応策として、学習者が挙げたように（質問 8 番）、アンケート調査を行う前にインタビューの練習をすると改善されるであろう。さらに、インタビュー収録後、学習者と画像を見ながら、インタビューの内容・仕方について批評し合えば、次回対応できるのではないかと考えられる。

二人あるいは四人のグループで調査をしたことについては、日本語運用能力が低い学習者、或は、過度に心配し緊張する学習者にとっても、調査しやすい環境となった。録画されたインタビューの中で、学習者が他の学習者の日本語を直したり、聞き取れなかった質問、または分からなかった質問を言い換えたりしている場面が何度も見られた。反面、運用能力の低い学生が高い学生に頼る傾向もないとは言えない。

アンケート調査をさせるというタスクにより、日本人と日本語を話さなければならない環境を作ることができた。このタスクにより、学習者全員が、日本語運用能力のレベルに関わらず、日本人とコミュニケーションをしなければならなくなった。何度もアンケート調査をするうちに、学習者は相づちを打ったり、「ああ、そうですか」と自然に言えるようになり、聞き手として会話に参加できるようになって行くのが分かる。さらに、調査に慣れるに従い、回答者の話が聞き取れるようになって行く傾向も見られ、回答者からの質問にも答えられるようになった。実際、最初のインタビューには時間がかかっており、学習者がインタビューに慣れるにしたがって所要時間が短くなって行くことが分かる。これも、学習者の回答と一致する（質問 6 番）。

アンケート調査の工程でも説明したが、第 4 セメスターの学習者であることを考慮し、調査内容は本発表者が作成し、日本出発前に配布した。帰国後の学習者のインタビューでも分かるように、授業で練習してからやったら、もっと上手にできたと思うという意見が出た（質問 8 番）。これは教師側の準備不足が否めないが、自主的に事前の練習ができなかったのは本大学生の特徴かも知れない。あらかじめ作成されたスクリプトはアンケート調査に対する不安を解消する効果もあった（質問 3、4 番）。

アンケート調査の回答者の中に、発表者の友人・親戚を含めたことで、学習者の恐怖心を和らげることができた。学習者全員アンケート調査をすることは初めてであり、調査を始める前は、不安が大きかったことが学習者の帰国後の回答からも分かる（質問 1 番から 4 番）。また、ホテルのロビーで調査活動ができたことも幸いした。雑音が少なく、邪魔も入りにくい。学習者が選んだ回答者の職業は様々で、年齢も 10 代から 60 代後半まで幅広い年齢層の人にアンケート調査を依頼することができた。これはホテルという場所が良かったからだと考えられる。

研修旅行中アンケート調査というタスクを課せられたため、出発前に、自分で聞き取りの練習をした学生がいた（質問 21 番）。聞き取り問題を聞きながら、聞くだけで内容を理解するように練習したということである。アンケート調査というタスクが動機付けとなったと言える。

今回のアンケート調査の経験をどの学習者も良い経験だったと捕らえている。間違えてもほめられたり、日本語で話して喜ばれたりしたということだ（質問 18、19 番）。自分の日本語に自信が持てるようになった学生もいる（質問 19 番）。外国人が敬語を使うことについての質問で、どの回答も肯定的あるいは好意的だったので、元気づけられた学習者もいる（質問 18 番）。

9. まとめと今後の展望

日本語研修旅行中（10 日間）「敬語について」アンケート調査をするというタスクを課し、この活動を通して学習者の変化、対応について報告した。アンケート調査を何度も繰り返すことにより、学習効果があったと考えられる。学習効果として、1) 間違えても話し続ける、2) 慣れていない日本人の日本語が聞けるようになる、3) 話を聞きながら理解できるようになる、4) 自立した話者として会話に参加できるようになる、5) 日本語話者との円滑なコミュニケーションができるようになる、6) 日本語学習へ動機付け、7) 学習者が自分の日本語に自信を持つようになる、ということが挙げられる。学習効果以外の利点として、一般の日本人と話す機会が持てたこと、さらに、話しかけられた日本人も研究調査ということで協力してくれやすい環境ができたことが挙げられる。

このアンケート調査の経験を通して、学習者は今後もアンケートをやってみてもよいと考えている。学習者の中には、大学院に進むのに役に立つと答えた者もいた（質問 19 番）。帰米後のインタビューでは、全員この経験が役に立つと答えた（質問 16 番）。

今まで話したことがない日本在住の日本人と話ができたということは、学習者の自信に繋がったと言える。今回参加した4人のうち2人は来学期から2セメスター日本へ留学することになっている。1人は来学期も日本語を履修し、2011年春学期に留学したいと考える。残りの1人は来学期のスケジュールが合わず、日本語を履修する事はできないが、日本語の201/202を復習したいと考えている。

今回は、コネチカットカレッジのTRIPを活用した教室外言語活動について報告したが、アンケート調査というタスクは、スカイプなどのツールを利用して、アメリカにしながら日本在住の日本語話者にアクセスすることも可能である。日本語202番の日本語学習者にはアンケート調査は少し高い要求であったかもしれないが、300番以降の日本語学習者を対象にすれば、学習者への言語能力的負担が少なくなるかも知れない。また、アンケート調査の質問項目を作るところから学習者に参加させ、データをまとめて、発表させることも可能ではないだろうか。次の機会を作って日本語上級学習者にアンケート調査をさせてみたいと考える。

参考文献

Wetzel, Patricia J. 2004. *Keigo in Modern Japan: Polite Language From Meiji to the Present*. Honolulu: University of Hawai'i Press.